

■北東北研修会を開催しました

9月7日（土）盛岡市で北東北の研修会を開催しました。以下は、事務局からこの研修会に参加した塩谷理事長代行の報告です。

盛岡在住の行動隊員の杉澤氏にお世話頂いて、9月7日、岩手教育会館にて北東北研修会を開催しました。秋田、岩手、山形、宮城、千葉の5県から8名、報道関係者としてカナダのトロントから1名、そして既にお馴染みの復興メディア隊から2名の合計11名の参加がありました。

事務局から塩谷が出席し、SVCFの近況、放射線の話、シンチレーション式検出器とGM管式検出器の取り扱い説明をした後、線源を使った室内実習に続いて岩手公園内での屋外計測の実習を行いました。時間が限られていましたので、放射線の話では、ガンマ線が分子結合に参与している電子を跳ね飛ばして分子を破壊するという事だけに絞って話をしました。



昼食時の意見交換では、SVCFの活動が広がりすぎているのではないかという意見が出た一方で、“行動しない行動隊”を返すべく、活動の場を広げ実績を上げて東電に迫ることも一つのやり方である、実績を作る努力をするべきだという意見も出ました。

また、トロントの方のお話では、トロントにいと地震・津波・原発事故に関して最近ほとんど情報が入ってこないで自分で集めるしかないと思い立って日本に来た、これから放射線検出器を買って福島を周る予定とのことで、熱心に計測の実習に参加されていたのが印象的でした。政府が事故をできるだけ小さく見せかけようとする一方で、わざわざカナダから自分の目で現場を確かめるために来日する報道関係者がいてくれることは心強いことと思えました。



■原発ウォッチャー月例報告

以下は、原発ウォッチャーが東電発表情報に基づいて作成した月例報告（2013年8月分）の抜粋です。

1. 原子炉の冷却：原子炉の冷温停止状態維持と判断
2. 滞留水の処理：8月27日時点での設置済みタンク容量41.2万 m^3 （空き容量5.6万 m^3 ）で、このうち濃縮塩水タンク31.4万 m^3 （空き容量0.2万 m^3 ）で、前月に比べ塩水タンク容量が急速に逼迫している。建屋内滞留水量は1～4号機合計7.6万 m^3 で、タービン建屋内水位はOP+2.7～3.3m。
3. H4エリア汚染水漏洩問題
 - A. 汚染水タンク（H4エリアNo.5）の水位が340cm下がりが

300 m^3 程度の漏洩を確認（8月20日）。堰内からの汚染水回収は4 m^3 。

- B. タンクは「フランジ構造」で、当初H1エリアに設置されたが地盤沈下により移されたもの。水位計設置なし。
- C. タンクパトロールは2名が毎日交代で日に2回実施、漏洩を外観目視。今回の事態を受け、パトロール要員を60名体制とし、頻度を日に4回に。線量計測を日に2回、水位計測を日に1回に増強（パトロール時の被ばくについて記述なし）。
- D. タンク群外周堰の排水弁が常時開状態にあったことが漏洩水の大半を流出した原因。今後は常時閉として、雨水排出基準を設定する。
- E. 「フランジ構造」タンクの他の2基からも漏洩が確認され、同型タンク300基の緊急点検を実施するとともに「溶接構造」タンクへの変更を検討。

4. 沿岸部汚染水漏れ処理状況

- A. 護岸エリア地盤改良は1～2号機間が228本完了、2～3号機間、3～4号機間は計画完了し施工段階（～2014年11月末）。
- B. 1～2号機間ウェルポイント（28基）は8月15日稼働開始、平均70 m^3 /Dを汲上げ。
- C. タービン建屋東側地下水濃度は、1～2号機間観測井（No.1-2）が最も高い（全ベータ：76万、トリチウム：40万、セシウム134：110、セシウム137：270 単位はBq/L）。
- D. 分岐トレンチ（2号機電源ケーブルトレンチ）を9月上旬までに閉鎖予定。
- E. 主トレンチ（海水配管トレンチ）の水抜きは、2号機は2014年4月上旬開始予定、3号機は2014年3月中旬開始予定。

5. 滞留水対策

- A. 地下水バイパスは、A系統が試運転と水質確認の全てを終了、代表核種セシウム137で周辺河川と比較し十分低い濃度を確認。現在、地元関係者に説明を実施中。B、C系統は試運転完了後、水質確認を実施中。
- B. サブドレンピット（復旧または新設：計約40本）の設備稼働開始予定は2014年9月末。
- C. 多核種除去装置（ALPS）は漏洩再発防止策実施後、C系統9月中旬、A系統10月中旬、B系統11月以降を目途にホット試験を再開する予定。
- D. 遮水壁：陸側遮水壁（凍土遮水壁）について、東電資料では特段の記述はない。

6. 海洋汚染拡大防止

- A. 海岸遮水壁：2012年4月より本格施工中。計画通り作業が進捗（～2014年9月完成予定）。鋼管矢板打設部の岩盤の先行削孔実施中（8月22日時点進捗率：98%）（～2013年12月予定）、鋼管矢板打設（8月22日時点進捗率：42% 完成は2014年3月予定）。

B. 海水浄化：3号機シルトフェンス内側繊維状吸着材浄化装置稼働中。第5回検討会実施。港湾内海水濃度の評価、浄化方法の検討を継続実施。

定循環浄化冷却中。

8. 作業者の被ばく線量：特定高線量作業者の被ばく者数がこの数か月増加している。

7. 使用済み燃料プールの冷却：1～4号及び共用プールは安

■皆様からのご意見、ご提言

事務局には、行動隊員・賛助会員の皆様からさまざまなご意見が寄せられています。今後、紙幅に合わせて整理・抜粋のうえ、順次掲載させていただきます。

●福島県に事務所を

できることをすることです。発言力がないことが行動できない原因です。発言力を増加させるには福島県の方と膝を交え味方になることです。できることは、南相馬市か双葉町に福島事務所を設置し理事を常駐させることだと信じます。その一つとして、具体的には、事務所に放射能測定器を保管し、貸出ができるようにしてください。（神奈川県 三宅勇次・Gene）

●プロとして東電に提言を

当初のこの会の目的から日々の経過と共に薄れてきているような気がしてなりません。この会の目的は福島第一原発の事故を収束させるため、我々の役目として死をも覚悟して集まった同胞だと思います。今は我々の組織を全く必要としない所で肅々と収束活動を東電は続けています。

0Biに聞くと4号炉の使用済み核燃料の取り出し設備や周辺ガレキの処理の毎日とのことですが、今回の汚染水問題は、昨年仙台で開かれた会合で山田理事長も話されていたように、事故発生時はやむなくですがサニーホース（建設現場でよく使う仮設のビニールホース）が問題に上がっていました。塩ビのパイプもジョイントは差し込み接着剤止め、通常の無害の水なら問題ないのですが、放射線を含む水となればねじ込みと耐圧ホースが必要です。なぜ東電にプロとして提言できないのか歯がゆい感じです。

まわりの地下水の流入も早くから取り上げていた問題です。通常建築・土木の技術者なら地下建築物を作るとき、周囲から水が入らないように遮水工事（連続地中壁がよいのですが緊急的に水ガラス柱で敷地を覆う）をするのが常識です。規模が大きいのが理由かわかりませんが、全く話題にならず目先の4号炉の燃料棒取り出しにエネルギーを費やしている気がしてなりません。せっかく一流の技術を持ちながら、それを決める頭脳が今の政府にも東電にも欠けている。直接手を下すか云々はともかく、第3セクター的な立場で国策としての提言が必要です。（宮城県 西山秀男）

●監視の努力を続けてほしい

唯一の信頼度の高い情報としてこの通信を評価しています。監視の努力を続けてくださることを期待します。東電は行動隊に視察を全面的に許すべきです。（東京都 加藤尚武）

●何をなすべきか

何をなすべきかについて、以下があり得るのではないかと考えます。東電、国、国会議員と早々に交渉されることを期待します。

1. 業務内容：汚染水貯留タンクの漏洩監視

- ・タンク全数の目視確認。
- ・漏水した場合に線量率が上昇する可能性が高い場所（あらかじめ特定、選択できれば）のサーベイメータによる線量率測定。

2. 理由：きめの細かい上記作業が行われてこなかった結果、漏水後、一定以上の時間が経って、偶然発見する状況が

あるように推察されるため、それを防止し、予防保全的に、漏水後速やかな発見をする必要があるため。

3. 行動隊が適任である理由：

- ・冷静に、気長に単調な監視作業を遂行する責任感、精神力、集中力が備わっている。
- ・線量率測定のためのサーベイメータ取扱い技術を習得している。
- ・客観的、第三者的立場であるので、公平に監視作業を行い、結果を隠蔽などするおそれがない。
- ・被ばく線量管理上、人数的ストックが豊富である（肉体的負荷、専門知識を要する技術者の、当該監視作業で発生する、できれば避けたい被ばくを肩代わりできる）。

皆が嫌がる仕事を進んでできるのが行動隊の強みだと思います。なんらかの役割が割り当てられることを期待しております。（神奈川県 愚公）

●汚染水・汚染土を硫黄島に

巨大トラブルに対して東電や政府の小手先の対応に歯がゆい思いをされていることでしょう。穴の開いた原子炉でも絶えず冷却が必要なため汚染水が増大することは誰でもわかる。これらを小手先の小規模仮設タンクに備蓄したり、地下水の問題にすり替えたりしている。凍結壁の対処も問題解決にならないばかりか、新たなリスクが生じる。私達としては、今何をなすべきか、代案を提示すべきだと思います。

私は日本国内で唯一住民の反対を処理できる、汚染水及び汚染土の備蓄基地及び処理施設を硫黄島に作り、福島を軽減することを提案したい。費用は二千億円程度でまかなえる。移送はタンカーやコンテナ船で行います。現在石油使用量の縮小によりタンカーは余っている状態なので、すぐに調達できます。移送は今後10年以上続くと予想します。仮設タンクと同様にタンカーも汚染ゴミになります。タンカーは海洋汚染防止のためダブルハル（二重構造）になっており、現在の仮設タンクに比べ安全です。

汚染ゴミを陸路大阪まで800km運ぶのと硫黄島まで海路1200km運ぶ場合を考えれば、コストも安全も住民感情も解決しやすいと思います。硫黄島には汚染水の備蓄タンクと処理施設と同時に発電所や棧橋などの港湾施設のインフラが必要ですが、これらは大したコストはかかりません。今後50年間この施設は稼働することを前提にしなければなりません。

荒唐無稽の案と批判されると思いますが、長期視点に立った具体的提案企画の公表は、現在の対策の不備な点をあぶりだす効果があり、長期対策公表を迫るものと考えています。（千葉県 松永宏）

●住民のために放射線量測定を

一度線量測定に参加いたしました。線量が高い所もあり、地域の方からも、ここで暮らせますかと聞かれましたが、無理みたいですねと返事をしました。避難準備区域の方は、自分の家の周り、内部の部屋、庭、畑の汚染状況がわからず、避難所生活をしています。この人たちに自分の生活区域はこのようだと、一戸一戸知らせてあげるのが、今一番必要ではないでしょうか。ワカラナイが一番の不安ではないでしょうか。この仕事が行動隊の仕事のように思います。（福島県 関根正一）